

## 協同組合秋田市民市場

秋田県秋田市

<http://www.akitashiminichiba.com/>



### 組合概要

発足年 1962年(昭和37年)  
 売場面積 6974.0㎡(2113.3坪)  
 組合員数 47組合員  
 出資金 30,199.3万円  
 営業時間 5:00~18:00  
 (店舗により異なる)  
 定休日 日曜日

### 業種構成

・青果 10店      ・花き 2店      ・鮮魚 19店      ・食肉 1店  
 ・総合食料品 2店      ・他食品 9店      ・その他 4店

## 秋田の「旨い」がなんでも集まる市民の台所兼観光拠点

### 2回のリニューアルで市場機能を拡充し市民の台所を確立

昭和37年4月、市民の台所をめざして組合員47名・出資金30,199.3万円で協同組合秋田市民市場が設立された。1億5千万円で前身である旧朝倉市場より土地・建物を取得し、市場管理事業がスタートした。昭和39年8月土地建物を売却し新たに現在地を県より購入し、昭和39年12月新築落成し移転した。高度成長に合わせ、レジヤーマを含めた複合ショッピングセンターをめざし、昭和42年10月に市場2階部分にボウリング場建設した。

更に、モータリゼーションに合わせて、昭和48年4月に3階建ての立体駐車場完成させ、収容可能台数145台を実現した。老朽化に伴い、平成15年に2回目のリニューアルを行い現在の店舗となる。

創業当時よりも組合員数は減少しているが、生鮮食料品を中心に47店舗が集まっている。市場内に留まらず、外部の催事・施設や県外の市場等に積極的に向いて、市民市場のPRを行う一方、市民市場内の飲食店等と連携して「食」に関するイベント等を行い、市場施設への集客力を高めている。

### 「市場の雰囲気を楽しむ」「楽しく買う」「食べて飲んで楽しむ」小売市場

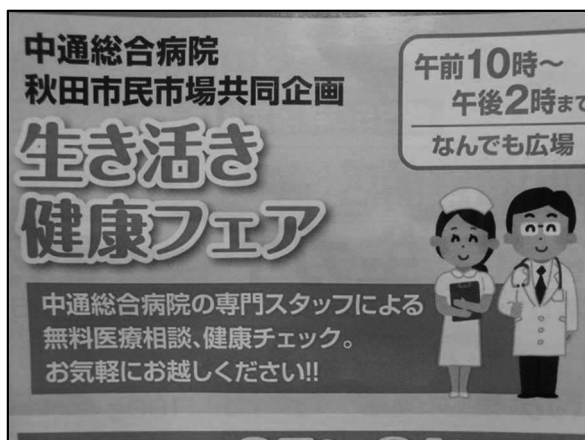
観光客等に対してもインターネットを活用して情報提供を積極的に行っている。ホームページでは市場と秋田の旬を紹介し、ネット販売をメインとしている。ホームページにリンクさせてフェイスブックも立ち上げている。当市場のキャラクターである「旬太くん」を案内役として、旬の商品紹介や特売等のイベントを紹介し、来店を促している。印刷物としては当市場の楽しさを伝える「市場利用ガイド」を小冊子として作成し、市民や観光客等に配布している。

組合事業として活発に行っているのが季節毎のイベントと創業祭や歳末感謝祭である。折り込みチラシやフェイスブックでPRしているが、中でもその場で使えるお買い物券を進呈する年末の大抽選会は恒例行事となっている。市場内の「なんでも広場」では、100回を越える月1回の無料健康相談会をはじめ、様々なイベントや即売会が開催されている。年末には歌謡ショーやステージショーも開催されている。買物だけではなく、市民が生活を楽しむ場所として市民市場を位置づけている。

### 生ゴミのリサイクルや食育で社会貢献

社会活動にも積極的に取り組んでいる。生鮮食品中心の小売市場であるため、生ゴミのリサイクルには熱心である。組合では大型生ゴミ発酵処理機を購入し、各店舗から出てくる生ゴミ(魚のアラや野菜くず等)を堆肥化している。製成された堆肥は取引のある農家に提供する。その堆肥で農家が生産した農産物を当市場が仕入れて販売する。魚を扱っている店から大量に出てくるのが生ゴミである。このため、各店舗において生ゴミの分別処理が必須となる。継続して協力している店舗を総会で毎年表彰している。組合では発泡スチロール処理機も導入している。鮮魚店中心に大量に出てくる発泡スチロールを圧縮処理して一括業者に引き取ってもらう。

地産地消および食育に関しても地元農産物の消費PRしている。地元小中学校子供達を体験学習として受け入れる一方で、親子を対象に地元食材を使った料理教室も開催している。地元食材を使った鍋料理は好評である。このほか、組合出資の子会社を通じて、買物に出掛けるのが困難な市民に向けての「買い物お届けサービス」にも取り組んでいる。



地域の総合病院と連携し、実施100回を越える月1回の無料健康相談会



食に関するイベント開催「まぐる解体ショー」